

シグマ研究委員会

核融合核データワーキンググループ会合議事録

日 時 昭和56年11月6日(金) 13:30~16:00

場 所 原研東海研 研2-222号室

出席者 神田(九大), 村田(NAIG), 真木(日立エネ研), 中島, 関, 浅見(原研)

- 配布資料
1. 前回(56.8.20)議事録(案)
 2. 原子力総合シンポジウム仮プログラム
 3. ${}^7\text{Li}$, ${}^{12}\text{C}$, ${}^{16}\text{O}$ のENDF/B-IVとVデータの比較
 4. FNS実験解析について

議 事

1. 前回議事録確認

資料(1)により確認を行った, 真木氏の分担核種の記述がおちていたので追加し, 了承された。

2. 一般報告

浅見より, 最近の運営委員会での討議事項の概要について説明があった。これに関連して資料(2)が紹介された。

3. サブワーキンググループ会合報告

浅見より, FNS実験解析に関連して carbon等のデータを検討するためのサブ・ワーキンググループ会合(9月11日)の討議の内容について説明があった。 ${}^{12}\text{C}$ の実験データ, ENDF/B-IVおよびVの非弾性散乱データの比較(資料(3))を行い, ENDF/B-Vではかなり改善されていることがわかった。また, ${}^7\text{Li}$, ${}^{16}\text{O}$ のデータはENDF/B-IVとVとで全く同じであるが, ${}^7\text{Li}$ のデータはまだ改善の余地のあることが判った。関氏がFNS実験の解析にENDF/B-Vの ${}^{12}\text{C}$ のデータを使って計算を行っている。

4. FNS実験解析

関氏より資料(4)をもとに, FNSの実験解析とくに前回の会合以降のことを中心

に説明があった。 $\text{Li}_2\text{O}-\text{C}$ 体系中でのトリチウム生成率の分布および核分裂率の分布の実験値と計算値との比較が紹介された。とくに、ENDF/B-VのCのデータを用いることにより結果が大巾に改善されると予想されたが、実際には、改善の方向にあるものの最に5%改善されたのみであった。また、inelasticデータの非等方性を考慮した場合には、考慮しない場合に比べて5%程度しか変化がなかったことなどが説明された。

討議を行った後、この解析での不一致の原因の検討はサブワーキンググループで別途に行うことにした。また、関氏より ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$, ${}^{12}\text{C}$, ${}^{16}\text{O}$, Fe, Ni, Crの最良のデータセットを推せんして欲しいとの要請があったが、これもサブワーキンググループで検討することにした。

次回は12月15日(火)の予定